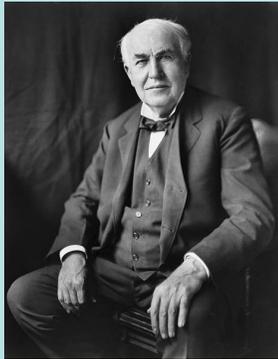


エジソンの蓄音機の歴史

1877年、エジソンは円筒型蓄音機(フォノグラフ)を発明。この蓄音機は「話す機械」として喧伝され、大いに評判を呼び、時の大統領はホワイトハウスに彼を招いた。



Edison
1847-1931



フォノグラフ



ダイヤモンドディスク

エジソンによる蓄音機の用途の提案(1878)

- 1) 速記者を必要としないで、手紙が書けたり、口述筆記に使える。
- 2) 目の不自由な人のための音の本。
- 3) 話し方の教育に使える。
- 4) 音楽の録音、再生。
- 5) 家族の記録として、家庭の人の話肉声や遺言を録音出来る。
- 6) オルゴールや玩具になる。
- 7) 帰宅時間や食事時間を教える事が出来る。
- 8) 発音を正確に録音するので保存出来る。
- 9) 教師の講義を録音し、ノート代わりとして単語の記憶

エジソン蓄音機の改良の歴史

- 1899 エジソン・ホームAの発売
- 1901 エジソン・スタンダードA: 家庭用蓄音機(2分レコード専用)の発売
- 1906 エジソン・スタンダード・モデルをターゲットの
Columbia Graphophone Type BK]“Jewel”発売
- 1909 エジソン・アンベローラ1A: ホーン内臓型のエジソン1号機の発売
- 1915 アンベローラ30: 4分再生機の発売
円盤レコードの蓄音機C-250の発売
(縦振動タイプ、ダイヤモンドディスク)
- 1929 円筒式蓄音機の製造を終了